

ヨシヤ
聖徒伝 63

「従い通して 開かれる道」

ヨシュア記13～15章

約束の地の相続・カレブの従順

【今日のアウトライン】

- 0. イントロダクション
- I. ヨルダン川東岸の相続地 **13章**
- II. 勇者カレブの相続地 **14章**
- III. ユダの相続地 **15章**
- IV. まとめと適用
カレブのように
主の約束に生きる者となろう



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

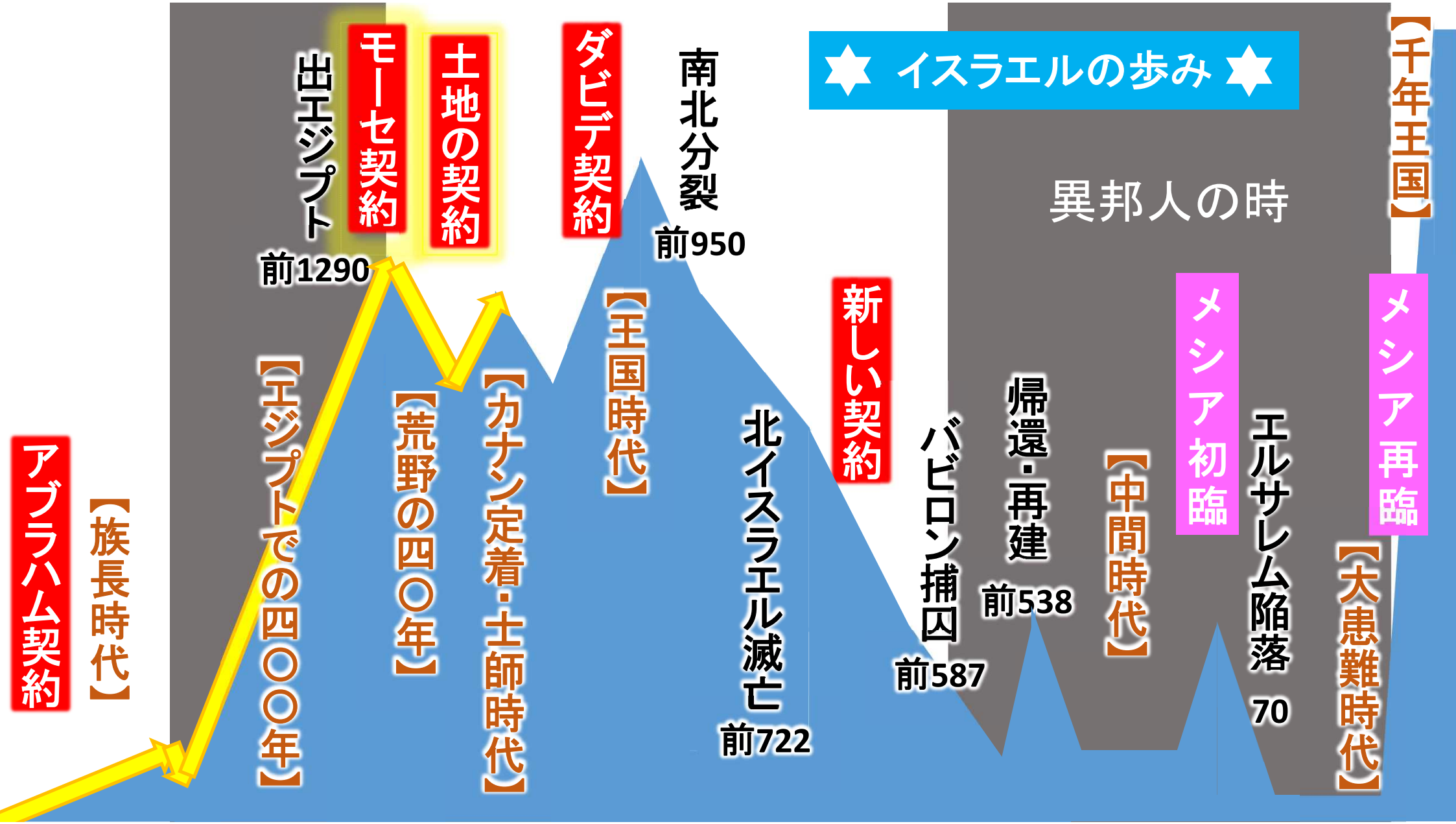
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

エルサレム陥落
70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂
前950

出エジプト
前1290

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

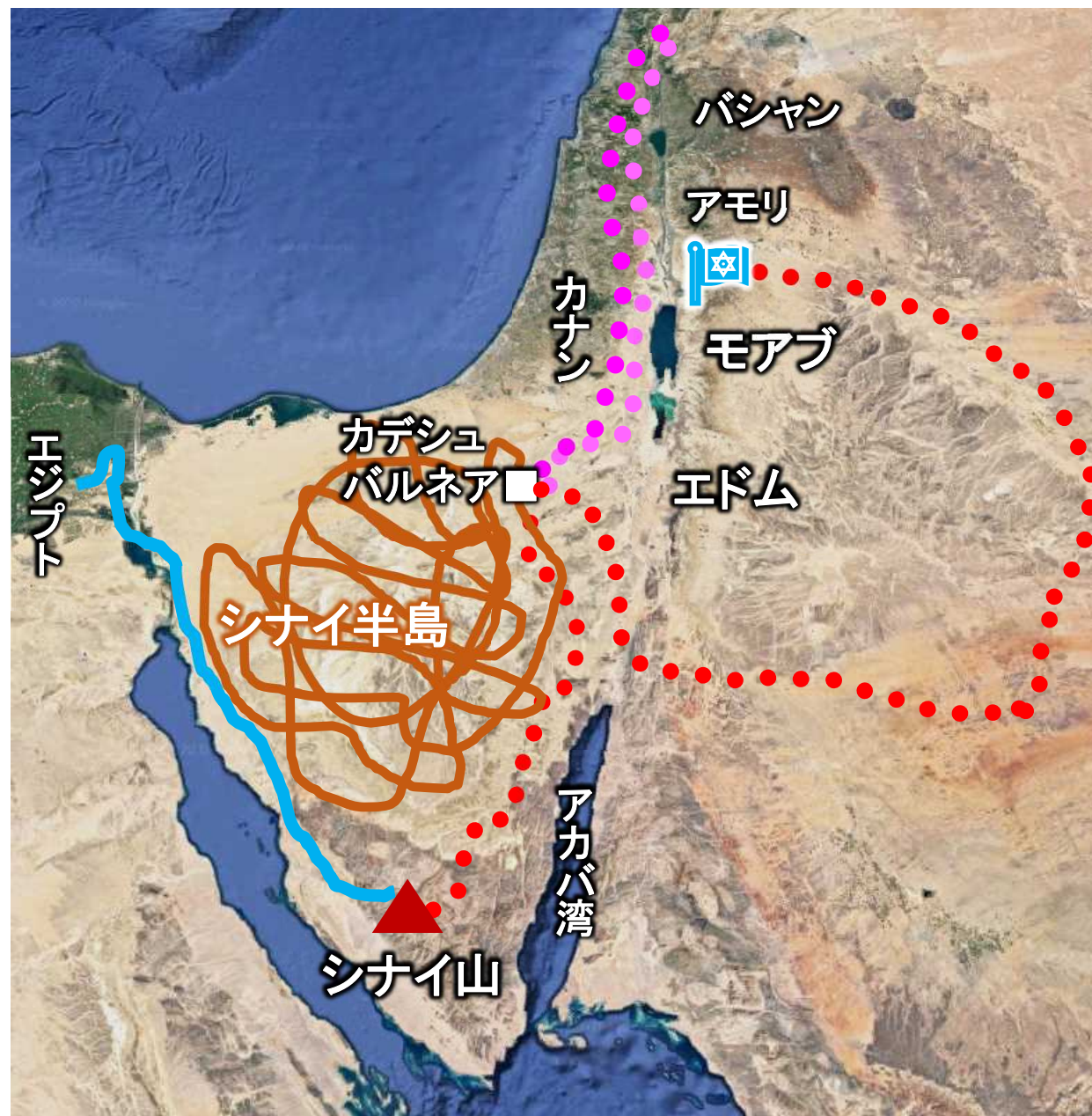
【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



【ヨシュアのプロフィール】

- エフライム族出身(民13:8)。主エジプトの時、40歳。
- モーセの従者(ヨシ1:1)。モーセから訓練を受けた。
- 最初の戦い(vsアマレク)で指揮を執った(出17章)。
- モーセと共にシナイ山に上った(出32:17)。
- ホセア(救い)からヨシュア(主は救い)へ改名(民13:16)
- カデシュ・バルネア事件では、12人の斥候の一人として約束の地に派遣。カレブと二人、進軍を訴えた。この二人だけが約束の地に入ることを許された。
- 80歳で、モーセの後継者となった。
- 110歳でその生涯を終えた。



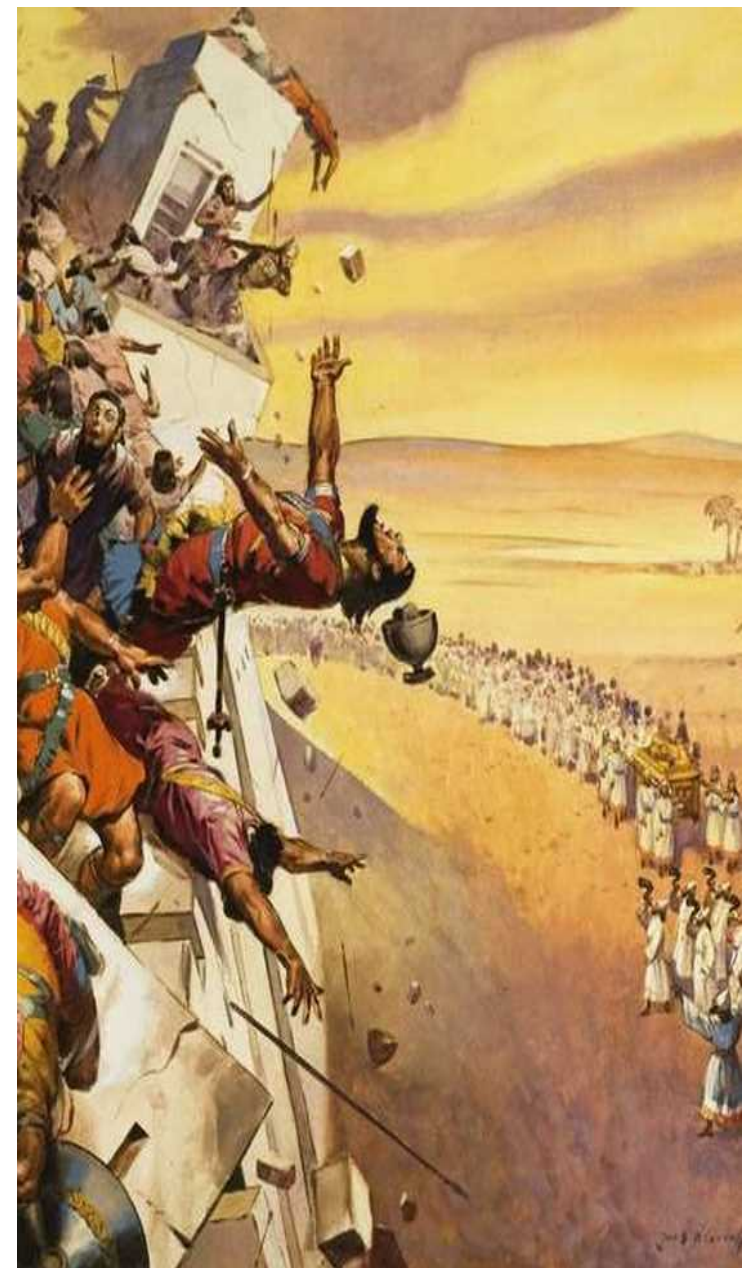
【古くからのカナンへの呪い】 創世記 9:24
「のろわれよ。カナン。兄弟たちのしもべらの
しもべとなれ」

- 酔い潰れたノアの裸を見、辱めたことで、
カナンと子孫は、呪われるものとなった。
- アブラハムが遣わされたのがカナンの地。
偶像があふれ、民は墮落しきっていた。
- 最後まで神に反逆し、天使すら犯そうとした
ソドムとゴモラの町は、主に厳しく裁かれた。



【カナンの征服戦争・神の裁きの原則】

- カナンには、途方もない猶予期間があった。
カナンは、唯一の主を知っていた。
➡にも関わらず、神に背き通したカナンに、
イスラエルを器として、裁きがくだった。
- 個々人には、主を信じて救われる道があった。
- イスラエルは、徹底した従順が求められた。
➡聖絶の戦いをけがした者は、聖絶される。
- イスラエルは、身をもって、神の聖なることを、
律法の定めた祝福と呪いを味わい知らされた。



【戦術的に見る、カナン征服戦争】

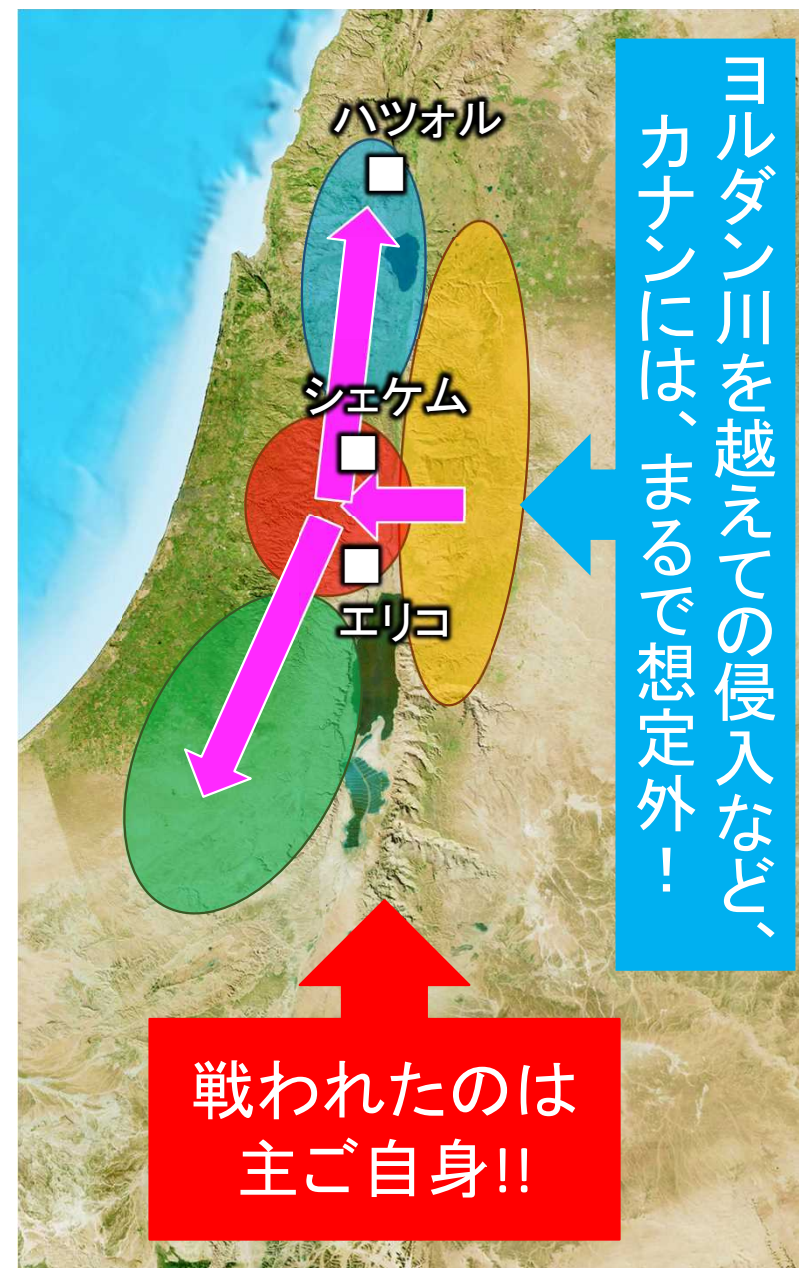
■ カナンの戦いは基本的に攻城戦。

城壁で囲まれた町々を攻略していった。

➡ 通常、膨大な戦力と物資、時間が必要。
前の砦を落とさなければ、進めない。

■ イスラエルの進軍ルート

- ① ヨルダン川東部 ➡ 後顧の憂いをなくす
- ② 中央部 ➡ 干上がったヨルダン川を渡り、
不意を突き、最大勢力を撃破
中央部を押さえ、敵勢力を分断
- ③ 南部 ➡ 南部の諸民族を撃破
- ④ 北部 ➡ 北部の諸民族を撃破



I. ヨルダン川東岸の相続地

ヨシュア記13章



【残された地】 ヨシュア13:1~2

ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。

【主】は彼に告げられた。「あなたは年を重ね、老人になった。しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。

残っている地は次のとおりである。

■ エリコの戦いから5年。ヨシュアは85歳。

■ アブラハムに約束された地は、
南はナイルの支流から、
北は、ユーフラテスに至るまで

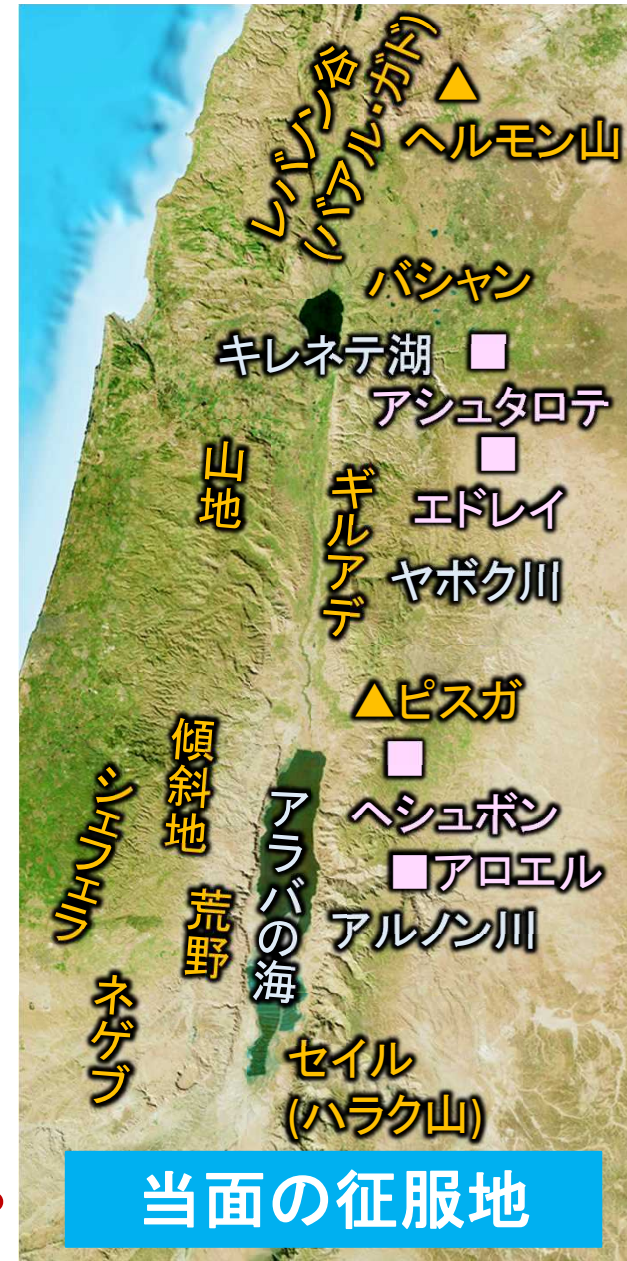
すべてを支配するのは、千年王国において



【相続地の割り当て】 ヨシュア13:6～7

わたしは彼らをイスラエルの子らの前から追い払う。わたしがあなたに命じたとおり、あなたはその地をイスラエルに相続地としてくじで分けよ。今、この地を九部族とマナセの半部族に相続地として割り当てよ。」

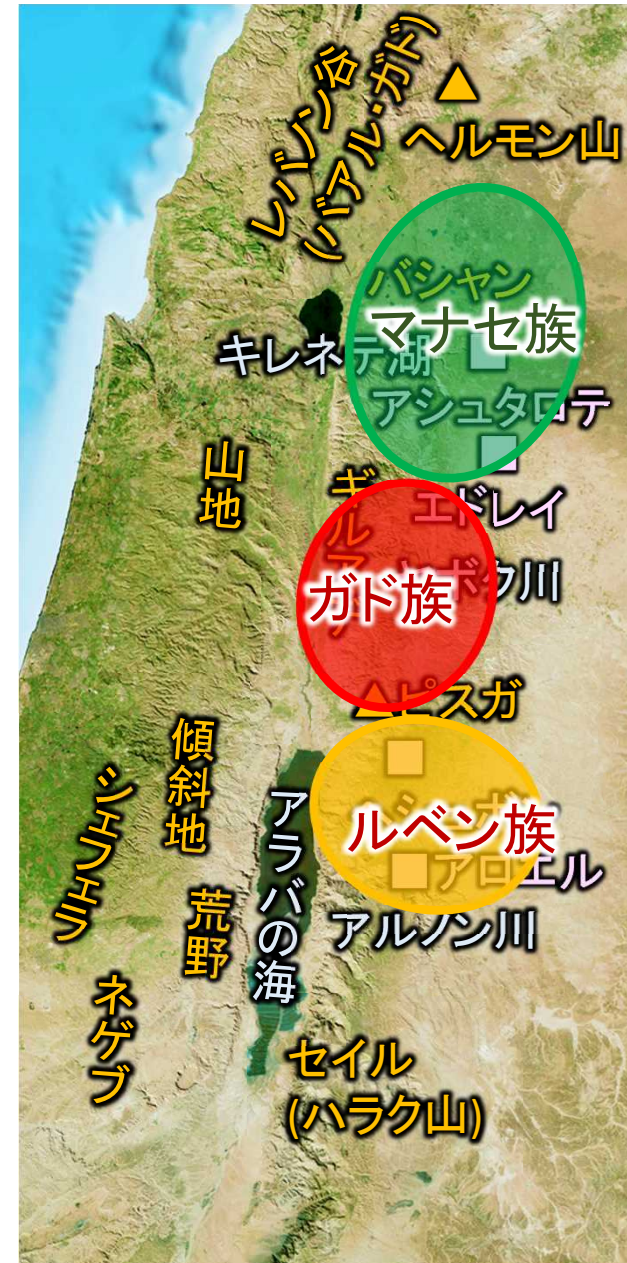
- 「くじ」による神託。神の意思に従ってということ。
- 未征服の地も含めて、相続地が決められた。
- 相続地の広さは、人口比によって、
場所は、くじによって決められた。
- イスラエルの約束の地を得る戦いは継続していく。
→クリスチャンには死ぬまで続く聖化の戦いがある。



【ヨルダン川東岸の相続地】 ヨシュア13:15～33

- ヨルダン川東岸の戦いが再度記され、ルベン族、ガド族、マナセの半部族の所有地が詳述される。
- 討ち取られたアモリ人、ミディアン人の王たちと、呪術師バラムの名も列記されている。
 - ➡ミディアンの女たちにイスラエルを誘惑させ、偶像礼拝に陥らせた。(民31:16)
- ゲシュル人、マアカ人は残ったまま。(北方?)

最初に、ヨルダン川東岸の相続地が定められた。



Ⅱ. 勇者カレブの相続地

ヨシュア記14章



【割り当てられた相続地】 ヨシユア14:1～5

イスラエルの子らがカナンのでゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシユアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに相続地としてくじで割り当てた。【主】がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。

- 主の命令通り、相続地が分割された。
- レビ族だけは例外。祭司や奉仕者として、神に直接仕えるレビ族には、神ご自身が嗣業。
➡ クリスチャンには、主イエスご自身が嗣業。
私たちは、主イエスの命を継がされている。



【カレブの歩み】 ヨシュア14:9～11

その日、モーセは誓いました。『あなたの足が踏む地は必ず、永久に、あなたとあなたの子孫の相続地となる。あなたが私の神、【主】に従い通したからである。』
ご覧ください。イスラエルが荒野を歩んでいたときに、【主】がこのことばをモーセに語って以来四十五年、【主】は語られたとおりに私を生かしてくださいました。ご覧ください。今日、私は八十五歳です。

モーセが私を遣わした日と同様に、今も私は壮健です。私の今の力はあの時の力と変わらず、戦争にも日常の出入りにも耐えうるものです。

カレブは、ただ主の約束に生かされ、戦ってきた!!



【ヘブロン戦いの立役者カレブ】 ヨシヤ14:12～13

今、【主】があの日語られたこの山地を、私に与えてください。そこにアナク人がいて城壁のある大きな町々があることは、あの日あなたも聞いていることです。しかし【主】が私とともにいてくだされば、【主】が約束されたように、私は彼らを追い払うことができます。」
ヨシヤはエフネの子カレブを祝福し、彼にヘブロンを相続地として与えた。

- 南部の戦い(10章)のカレブの活躍が、今明かされる。
- ヘブロンには、アブラハムのマクペラの墓地がある。
カレブは、難攻不落の城塞都市を相続地に求めた。



【神による勝利者カレブ】 ヨシュア14:14～15

このようにして、ヘブロンはケナズ人エフンネの子カレブの相続地となった。今日もそうである。彼がイスラエルの神、【主】に従い通したからである。ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。これは、アルバがアナク人の中の最も偉大な人物であったことによる。こうして、その地に戦争はやんだ。

- アブラハムが、生涯唯一手に入れた小さな墓地。
はるか後の子孫が、その町ヘブロンを勝ち取った。
- 主に信頼して生きる者に必ず果たされる約束がある。
永遠に続くように思える時もある私たちの信仰の戦い。
しかし、主が完全に勝利を収められる時は来る!!



Ⅲ. ユダ族の相続地

ヨシュア記15章



【ユダ部族の相続地】

ヨシュア15:1～14



南はエジプト川にいたるまで

ツインの荒野

【カレブの娘】 ヨシュア15:15

そして彼は、そこからデビルの住民のところに攻め上った。デビルの名は、かつてはキルヤテ・セフェルであった。そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを討って、これを攻め取る者に、私の娘アクサを妻として与えよう。」

カレブの同族ケナズの子オテニエルがそれを攻め取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。

嫁ぐとき、彼女は夫に、自分の父に畑を求めるようにしきりに促した。彼女がろばから降りると、カレブは「あなたは何が欲しいのか」と彼女に言った。

アクサは言った。「私にお祝いを下さい。ネゲブの地を私に下さるのですから、湧き水を下さい。」そこでカレブは上の泉と下の泉を彼女に与えた。



アクサは、夫に畑を求めさせ

自分は、泉を求めた

私たちの求めるべきは、命の泉なる御言葉

【ユダ所有となった南部の町々】 ヨシユア15:20～63

■ ユダ部族の相続地となった町々の名が記される。

全部で112の町々。今となっては詳細は不明。
...点在する城壁の町をイスラエルは勝ち取った

■ 一方、残された町々もあった。イスラエルの地と
カナンの地は、モザイクのようだっただろう。

15:63 エルサレムの住民エブス人を、ユダ族は追い
払うことができなかった。エブス人はユダ族とともに
エルサレムに住んだ。今日もそうである。

■ 後に、都となる最も重要な町エルサレム。
勝ち取るのは、はるか先のダビデ王の時代。



まとめと適用

カレブのように
主の約束の生きる者になろう



【イスラエルの相続地】

- 12章までは、約束の地におけるイスラエルの戦いが記され、13章以降は、相続地の分配について記されていく。
主が12部族の土地を決められたが、手にする戦いはずっと続いていく。
- 来るべき新しい世界で、クリスチャンの相続地はすでに決められている。
現実の世では、生涯、クリスチャンの信仰の戦いは続いていく。
- 年老いても戦い続けたカレブを支え続けたのは、変わらない主の約束。
カレブは、アブラハム、モーセへの主の永遠の約束を信頼した。
➡ 私たちに力をあたえるのも、神の永遠の約束であると知ろう。
主に従うから道は拓かれる、体験することで確信は深められていく。

【ヨシュアのように、カレブのように、神の約束に生きる者となろう】

■ 私たちの日々の小さな戦いには、敗退があり、挫折がある。

この町や、この国においては、負けっぱなしの戦いなのかもしれない。

■ 主の約束を噛み締めて、主の視点から希望を得よう。

主イエスの救いの御業は成し遂げられた。私の罪のために十字架で死んで復活した主イエスは、栄光の王として戻って来られる。

■ 勝利者なる主イエスが、永遠の相続地を与えてくださる時が来る。

主の目には、すべてのことは、すでに完了されたこと。

■ たった一つの魂でも、福音を知り、主を受け入れて救われるなら、言うことなど何もない。主に栄光が帰されることを、祈り求め、歩んでいこう。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

天におられる主イエスは、栄光の王として もどってこられます。

すべての敵(てき)を打ち破(やぶ)り、永遠(えいえん)の御国(みくに)に、
この身を招(まね)き入れてくださいます。

約束(やくそく)された相続地(そうぞくち)の恵(めぐ)みを、今この瞬間
(しゅんかん)にも味わわせてください。

あなたの恵みに圧倒(あつとう)されて、ただ、すべてあなたに栄光を
帰(き)すべく、伝道者(でんどうしゃ)として ここからつかわしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」